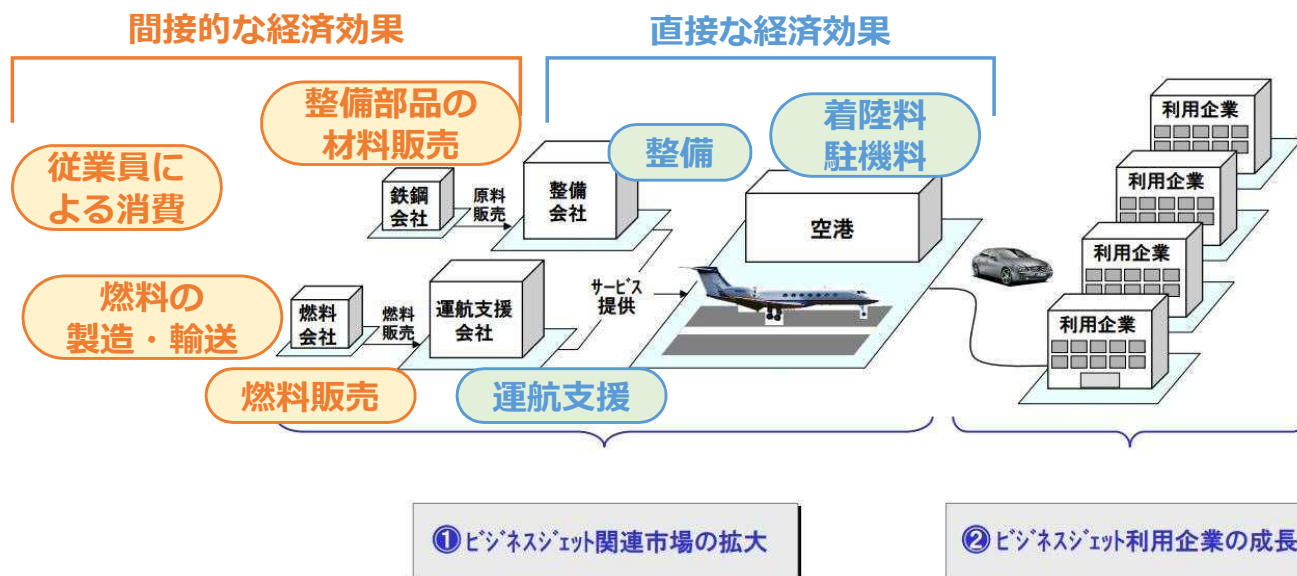


検討1 丘珠空港に就航するメリット

- 考察**
- ① ビジネスジェット受入により、関連市場及び利用企業の経済効果が見込める。
 - ② 丘珠空港ではビジネスや観光による効果が期待されるが、三大都市圏以外での利用割合は少なく、多くの利用を見込めない。

ビジネスジェット受入がもたらす経済効果



【参考】
 米国S&P500における調査ではビジネスジェットを利用する企業は、しない企業に比べて、時価総額の年間平均成長率では非利用企業の約6倍高く、売上の年間平均成長率では約2.2倍高かった。
 (出典 NEXA ADVISER “Business Aviation An Enterprise Value Perspective”)

参考・図：国土交通省 第1回ビジネスジェットの推進に関する委員会資料「ビジネスジェットに関する一考察」

丘珠空港でのビジネスジェット受入がもたらす効果と課題

<p>期待される効果</p> <ul style="list-style-type: none"> 道内企業本社の他、道外大企業の支店が札幌に多く立地しており、ビジネスジェット利用による企業成長が見込める インバウンド来道客の増加にともない富裕層の観光での来道や、外資系企業からビジネスの場としての注目も増し、ビジネスジェットでの来道需要に応じられる ビジネスジェットの受入強化により、札幌市が推進しているMICE誘致への強みとなる 	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ビジネスジェットが三大都市圏（東名阪）以外の空港を利用する割合が少なく、静岡空港（三大都市圏にアクセスしやすい）のような立地的な強みに欠けている ビジネスジェットの利用が盛んな欧米企業による利用は、丘珠空港から遠隔地のため機材が大きくなることから、現状施設での利用は難しい
--	--

検討3 ビジネスジェット機の受入環境の改善

(4) ビジネスジェット受入促進のための必要施設

考察 丘珠空港でのビジネスジェット機の受入促進には、格納庫と専用動線の整備が必要である。また、ビジネスジェットの運航支援ができるFBOやCIQ体制の整備も必要である。

■ ビジネスジェット受入促進に求められる施設（ハード面）

必要施設		丘珠空港における整備の必要性
駐機場	<ul style="list-style-type: none"> 専用でなくてもいいが、優先的に誘導できると好ましい 	<ul style="list-style-type: none"> 駐機場が混雑することなく、現状で受入れ可能 専用動線近くのスポットへの誘導が必要 (路線の拡充やビジネスジェット受入れが増加すれば、専用もしくは優先スポットの検討が必要)
格納庫	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の滞在に合わせ数日間格納できるよう専用格納庫が好ましい 	<ul style="list-style-type: none"> 現状、ビジネスジェットを格納する余裕がなく、新設が必要
滑走路	<ul style="list-style-type: none"> 冬期間の利用や欧米からの比較的大きなビジネスジェット機を受入れることが可能な滑走路長が望ましい 	<ul style="list-style-type: none"> 現状では、比較的小さめのビジネスジェット機の夏期運航は可能だが、延伸により更なる利用が図られる
専用動線 ・専用ターミナル (専用通路・専用車寄せ・ラウンジ等) ・専用CIQ	<ul style="list-style-type: none"> ビジネスジェット利用客と一般客の動線を分離することが望まれる スポット→入国審査→空港出発、空港到着→出 国審査→スポットを短距離・短時間で 	<ul style="list-style-type: none"> スムーズな移動には平面での移動が好ましく、ターミナルビル1階内に確保することは困難、改築もしくは新設が必要 国際線の運航がないため、CIQ施設が無く、CIQ体制とともに整備が必要

■ ビジネスジェット受入促進に求められるサービス（ソフト面）

- **FBOによる運航支援** ビジネスジェット受入れに係る一括した総合運航支援ができる事業者が好ましい
- **CIQ体制の整備** 国際便の受入環境として
- **運用時間の拡大** 多忙なVIPの来道やお忍び来道に対応

道内7空港運営会社におけるビジネスジェットの取組み

- 要点**
- ① 道内7空港運営会社（北海道エアポート株式会社）では、北海道でのビジネスジェットの需要を見込んで、**北海道全体でのビジネスジェットの受入体制強化・需要促進**を提案している。
 - ② 新千歳空港 ビジネスジェット専用ターミナルの計画
 - ③ 帯広空港 ビジネスジェット専用格納庫や駐機場の計画

新千歳空港におけるビジネスジェット利用の構想

- ビジネスジェット専用ターミナルを新設し、国内外からの富裕層のビジネスジェットでの来道を促進
- 帯広空港の専用格納庫の新設、他6空港の専用導線整備と合わせ、北海道全体でのビジネスジェット受入体制強化

帯広空港におけるビジネスジェット利用の構想

- ビジネスジェット専用格納庫や駐機場整備による十勝地域への富裕層の誘致
- 北海道全域へのビジネスジェット需要促進



図-1 新千歳空港のビジネスジェット専用施設の構想



図-2 帯広空港のビジネスジェット格納庫エプロンの構想

丘珠空港におけるビジネスジェット利用の可能性

- 考察 ① **札幌市内**は、道内の観光拠点として、また医療ツーリズムとしての活用があることから、ビジネスジェットの潜在需要はあるものと思われる。
- ② **丘珠空港**においてビジネスジェット機を受け入れでの課題
- ・課題1：FBO（運航支援事業者）によるサービスの提供がない
 - ・課題2：CIQ手続き（税関・出入国管理・検疫）がない
 - ・課題3：ビジネスジェット専用の駐機場・格納庫がない

道内7空港運営会社のビジネスジェット取組み

- ① **北海道全体**でのビジネスジェットの受入体制強化や需要促進が図られる。
- ② **新千歳空港**及び**帯広空港**において
- ・FBO（運航支援事業者）をサービスの提供
 - ・CIQ（税関・出入国管理・検疫）の実施
 - ・ビジネスジェット機の専用格納庫の提供

- ・新千歳空港を拠点に、ビジネスジェット機やチャーター機の「**道内各地へ**」の運航が増える。例えば、海外→新千歳空港→函館空港→丘珠空港→帯広空港→海外といった**道内周遊**の移動が考えられる。
- ・**札幌市内**にあるため**丘珠空港**において、ビジネスジェット機利用が高まる可能性がある。



図-3 新千歳空港から「道内各地へ」の乗り換え

資料：北海道エアポートグループ提案概要（国土交通省ホームページ，2019年8月）